# 「よろしかったでしょうか」[1] は誤用なのか

劉　　志　偉

## 0. はじめに

近年、「問題な日本語」[2] としてよく取り上げられる表現の一つに「よろしかったでしょうか」がある。しかし、「よろしかったでしょうか」の用法全てが問題視されているというわけではない。塩田（2002）の用語を援用すれば、少なくとも「よろしかったでしょうか」には「記憶確認用法」「妥当性確認用法」「いきなり用法」の三つが認められる。

(1) 店員「さきほどご注文されたのはみそラーメンでよろしかったでしょうか？」[3]（塩田 2002：71 「自分の記憶を確認する用法（記憶確認用法）」）

(2) 店員「ご自宅用に包装してしまいましたが、よろしかったでしょうか？」（塩田 2002：71 「自分がすでにしてしまった行為に問題がないかどうかを確認する用法（妥当性確認用法）」）

(3) 店員「いらっしゃいませこんにちは。店内でお召し上がりでよろしかったでしょうか」（塩田 2002：71 「（いきなり用法）」）

この三例のうち、(1)（2）は違和感のない用法であるのに対し、「いきなり用法」と称される（3）の用例が「気になる」表現として 1990 年代以降問題視されるようになり、メディア等で頻繁に取り上げられている[4]。塩田のいう「いきなり用法」とは聞き手が過去として了解していない、あるいは了解し得ない事柄に対し、「た」を用いて「よろしかったでしょうか」と問う用法のことである。本稿は、この用法について検討し[5]、日本語学習者の視点から、このような表現が誤用なのかどうかについて考えることとしたい。

## 1. 代表的な否定論と肯定論

北原（2004:38）は、「ご注文は以上でよろしかったでしょうか」という表現に対し、し終わった注文について言う場合、「〈過去のことについての現在における評価〉を表す表現として理解でき」るとしている。しかし、この説明だけでは次の用例を解釈することはできない。

(4)（コンビニエンスストアで弁当を買った時）店員「お箸はよろしかったでしょうか？」（宮田 2009：60）

この場合、これからもらうか否かである箸を過去のこととして問題にすることはできない。

また、北原（2005：109）では、北原（2004）の「ご注文は以上でよろしかったでしょうか」に対して違和感を覚える理由の補説として「そもそも「よろしかった」があまり使われない表現であるため、不自然に感じられるのでしょう」と述べている。しかし、上で挙げた用例（1）（2）のみならず、さらに少し用法の異なる例を挙げることができる。

(5)（駄菓子屋で 20 円のチロルチョコを一つ買うのに一万円札で支払おうとする時）店員「一万円札でよろしかったんですか？」

やや極端な用例ではあるが、店員が客の行動に対して困惑を隠しきれない場合、このように確認されたとしても不思議ではなかろう[6]。従って、必ずしも北原（2005:108）が言うように、「「よかった」が自然で「よろしかった」が変な言い方である」ということにはならない。「よろしかった」も、場合によっては立派な表現として存在するのである。

北原の否定説[7]に対し、奥秋（2007:57）は客の立場に思いを寄せた接客敬語の一表現として、「よろしかったでしょうか」は「限りなく正しい言葉遣いなの」だと反論している。しかし、後述するように、客の立場から見ても敬語に受けとれるとは言い難い場合も認められるので、奥秋の肯定論に問題がないわけでもない。

このほか、梅津（2007）では「違和感を感じる人が多いのは事実」と認める一方、「今までなかったことば遣いだから間違っている、とは一概には言えない」とも述べている。しかし、梅津（2007）は見解を述べるに留まっており、更にそこから詳しい理由を求めることはしていない。

## 2. 由来説について

次に、インターネット情報[8]や塩田（2002）等に取り上げられた「よろしかったでしょうか」の起源説等をまとめ、その問題点を指摘する。

### 2.1　敬語化由来説

「敬語化由来説」についてはまた「マニュアル説」と「丁寧化心理説」との二つに分けられる。

#### 2.1.1　マニュアル化によるもの（機械的に用いた結果）

マニュアル説については日本国内で発生したとする説と外資系の影響下で発生したとする説に分けられる。前者は、「よろしかったでしょうか」に対して何の違和感も持たない人間（方言説と絡む[9]）が接客マニュアルを作成し、それが日本中に広まった結果と考えられている。つまり、地方発の全国規模で展開するファストフード店が手がけたマニュアルによるものだということである。これに対し、後者の英語の影響を受けたとする説は、外資系の外食産業で日本語のマニュアルを作成する際、英語のマニュアルにあった would 等を用いた表現を「よろしかったでしょ

うか」と和訳し、そこから広まったというものである。

このほか、接客マニュアルに関わるものとして「端末入力説」が挙げられている。ファミリーレストランに行くとメニュー入力をする端末がある。ある注文を入力し終わった後に確認のために客に尋ねるので、過去形になることも起源説の一つとして考えられている。

しかし、たとえチェーン店によるマニュアル化が、この用法が広まったきっかけであったとしても、何を根本的な論理的な支えとして、多くの人々に受け入れられるようになり、広まりを見せたかについては説明できない。マニュアルに沿って機械的にこの用法を使用することが、店員やその周囲の人に影響を与えることはあっても、マニュアルとさほど関わりのない人々にまで、これほど浸透してきているということは、更に別の理由を考える必要があろう。現時点においては、マニュアル説に対して否定的な考え方のほうがかなり強い(10)。

### 2.1.2　丁寧化心理によるもの（意図的に用いた結果）

聞き手を意識し、丁寧に話そうとする心理が働いたものとする見解である。そして、諸説は日本語と英語のどちらかの影響下にあるものと区分することができる。

例えば､塩田（2002:75）では長拍説というものが取り上げられている。「よろしいでしょうか」より、「よろしかったでしょうか」のほうが長いため、より丁寧な表現となり得る要素があるのだという。その根拠は、真田（2001：178）にある「あいさつことばについては、一般に長い言い回しのほうがよりていねいな言い方になる」という指摘によっている。「よろしかったでしょうか」を挨拶の言葉と見なすかどうかについてはひとまず置くとしても、塩田（2002：75）も指摘しているように、「長くするためになぜ「（よろしかっ）た」という形が使われることになったのか」については問題が残る。

同じく日本語の視点から考察しているものに、奥秋（2007:58）の「現在完了を用いた確認形」とする説がある。奥秋（2007）は、「よろしいですか」と、単純によしあしを聞くよりも、「よろしかったでしょうか」といったほうが、相手の立場に思いを寄せる「ぬくもりの言葉遣い」になると主張している。さらに、過去の動作や状態が、現在の動作や状態とつながりをもっていることを表す語法を、「現在完了」と称し、日本語には現在完了形を表す動詞がないため、それに代わる言い表し方として過去形が用いられているのだと説明する。しかし奥秋の論は、日本語における「現在完了形」の有無については言及せず、後述するように、「よろしかったでしょうか」には相手の立場に思いを寄せているとは言い難い用法も存するため(11)、なお問題があるように思われる。

また、英語における「過去形」の影響とみる説もある。上のマニュアル説とやや重複するが、英語には、would といった過去形を使う丁寧な表現があることはよく知られている。しかし、日本語においても英語と同様に、時制を「過去」に変更することで敬意を表す言語の普遍性があるかどうかについては断じ得ないところがある(12)。

このように敬語化由来説には丁寧な話法とする説が散見する。しかし、客の立場に立ち、敬語のつもりで発話されたものだとは一概に断言できないので、その正否については意見を保留せざるを得ない。

### 2.2　方言由来説

次に方言起源説が挙げられる。インターネットで最も多く取り上げられている説である。論説として、その地域を北海道に限定したのが塩田（2002）である[13]。

> 具体的なことを想定してみるならば、例えば北海道出身の学生が他地域に出てきて、コンビニでアルバイトをしたとする。そこでその人は「よろしかったでしょうか」を多用するが、本人はそれが「方言」的な用法だとは気付いておらず、「よろしいでしょうか」と同じ意味だと考えている。ほかのアルバイターたちは、「そういう言い方もアリか」などと（微妙なニュアンスの違いを意識的あるいは無意識的に）感じ、広まってゆく。「地理的な流動性」が高まった現代では、成立しそうなストーリーではないだろうか。（p.82）

しかし塩田の説くように、方言が使用のきっかけであり得ると認めても、「よろしかったでしょうか」という表現の使用が拡がった理由を、方言に求めなければならない根拠は明確にされていない。また、当の方言話者でなければ、「よろしかったでしょうか」に対し、当然強い違和感を覚えるものと考えるのが普通である。その違和感が、かえってこの表現の使用を抑制することも考えられるのである。

以上 2.1 と 2.2 で見てきたように、マニュアル説や方言説は説得力に欠けていると言わざるを得ない。また、敬語説も魅力的ではあるが、何故「た」が丁寧の意を表すようになったのか、丁寧とは言い難い表現の場合はどのように解釈すべきか、といった問題点を解決していかなければならない。「～よろしかったでしょうか」という表現は、ただ単にマニュアルの影響、あるいは方言の影響下で深く考えられることなく用いられるようになった、と言ってしまえばそれまでだが、一個の表現の使用がここまで広まってきているのには、きっと内在的に何らかの論理的理由や背景があり、それによって支えられているからに違いない。従って、この言語現象に対し、内在的な理由や背景を検討し、その本質や存在理由を明らかにする必要が出てくる。

## 3.「よろしかったでしょうか」の「た」が意味するもの[14]

「よろしかったでしょうか」が問題となるのは、完了の「た」を用いることである。まず、辞書類における「た」の説明を確認しよう。『日本国語大辞典（第二版）』では、「た」について以下の用法が挙げられている。

①動作・作用が過去の事柄であることを表す

②動作・作用がちょうど完了したこと、また、その結果が現在継続していることを表す

③現在の事態についての強調や確認、また未来の完了などを表す

④（終止形だけの用法）イ　強い決意や断言を表す　ロ　軽い命令を表す

⑤（連体形だけの用法）ある状態が継続していることを表す

⑥（仮定形だけの用法）接続助詞的に用いる

以上のうち、意味①の「過去の事柄」を用いて、この用法の解釈を試みた論説に北原（2004）があり、次のような例が挙げられている。

(6) ご注文は以上でよろしかったでしょうか？（北原 2004：35）

北原（2004:37）は注文が過去のことと見なすことができれば許される表現としている。確かに、同一の注文に対して、話し手が「過去のこと」と見なしているのに対し、聞き手は「現在の注文」と認識しているという認識間のずれが違和感を覚える一つの理由として理解できる。しかし、過去か現在かの捉え方からだけでは次の例の説明はできない。

(7)（百円ショップでジュースを一本だけ買った場合）店員「シールでよろしかったでしょうか？」

この場合、シールに関しては「過去」なのか「現在」なのかについては問題の焦点とならない。そもそも「た」は、必ずしも過去のことしか表さないというわけではない。

(8) ご出発は明日でしたね。（北原 2004：37）

(9) 先週美瑛にいった。きれいな町だった。（庵 2002：70）

(10)（見覚えのない人から声を掛けられた時）どなたでしたか。[15]（森田 2006：4）

とりわけ、森田（2006：4）では用例（10）に対し、「「た」を付けることによって、あなたは初めて会う未知の人物ではない。既知の間柄でお名前も承知しているはずなのだが、あいにく失念してすぐには出てこない、といった相手を立てるニュアンスが生まれてくる」と説明する。この森田の説は、相手の立場に思いを寄せるという点では「よろしかったでしょうか」における敬語説に相通ずるところがある。宮田（2009：61）は森田（2006）を踏まえたうえで、(10) のような「た」の用法が「「よろしかったでしょうか」の普及を後押しした」とまで唱えている。しかし、「よろしかったでしょうか」が全て、以上のような「敬語説」に属するものであるとは限らない[16]。

(11)（入店する客に対して）「禁煙席でよろしかったでしょうか？」（塩田 2002：79）

(12)（デザートを注文する客に対して）店員「ご一緒にコーヒーはよろしかったでしょうか？」（塩田 2002：80）

(13)（ハンバーガーを注文する客に対して）店員「ご一緒にポテトはよろしかったでしょうか？」（塩田 2002：80）

塩田は、(11) が初めから客に「はい」と言わざるを得ない状況を作る場合があることから、「早く済ませたい説」と名付けている。それに対し、(12)（13）は注文の数を増やすための一種の「常識」提示とも言えるため、「（疑似）常識提示説」と命名されている。いずれも「店側の利益」を出発点とする発想であり、「敬語説」で片付けようとするには問題がある。従って、宮田（2009）のような指摘は、物事の一面しか捉えておらず、不十分であるように思われる。一方、塩田（2002:

79）は「「店側本位」の発想」と「自分としては敬意を持っているつもり」の発想」という2つの面を考慮しているが[17]、使用者の心理に分析の重心を置いた感を否めない。また、塩田（2002）と宮田（2009）の見解のどちらも、問題とするべき「た」の文法・意味機能に言及していない。

では、いかに「よろしかったでしょうか」を整合的に解釈すればよいのか。筆者は、「た」における「完了」という文法機能に注目し、「相手の立場を考慮する場合」と「自分の都合を優先する場合」とに分けて「よろしかったでしょうか」の発生ないし流行の原因について考えることとしたい。これにより、一つの用例によって相反する内容を解釈することが可能である。

（14）（レジにて）店員「一万円札からでよろしかったでしょうか？」

客への配慮を考えると、「よろしいでしょうか」と聞く場合、聞き手（客）に「今一万円出したという行為で本当に大丈夫だったのか？」と考えさせることになる恐れがあるため、一旦、相手が「よろしかった」状態と見なす（「そのようにお見受けいたしましたが」という意味）。そして、もしそうでなかったら、全て話し手（店員）の判断に責任があるという意味合いで発話し、「よろしいですか」のような強い確認を避ける。つまりその場において、確認表現を和らげようとする心理が働くという解釈となる。この場合、根本には完了状態を表す「た」の意味・文法機能がある。

一方、この用例については自己都合を優先する解釈もできる。この場合、「よろしかった」というのは、話し手（店員）によるそのようにお見受けしましたという判断を伴っており、完了した状態を前提に話を進めれば、聞き手（客）に極力否定的な返事を言わせないという意図的な使用である。結果として聞き手側は店員に対し、相手のペースで勝手に進められている、あるいは先取りされているという違和感が生じる。

一つの事柄に相反する解釈が含まれるのは一見矛盾しているようにも見えるが、上で述べたように、その背景にはいずれも「た」の完了の使い方がある。「よろしかったでしょうか」がここまで広まりを見せた理論的な支えは正にそこにあると考えられよう。周囲の人が「そういう言い方もアリか」（塩田 2002:82）と納得してしまうのも、「よろしかったでしょうか」の「た」が「完了状態」を意味し、存在理由として一理あるからである。

## 4.「よろしかったでしょうか」は誤用かどうかについて

これまでの先行研究も踏まえ、「よろしかったでしょうか」という表現に違和感を覚えるのは、話し手の意図と聞き手の解釈とのずれによるものと考えても問題はなさそうである。そして、種々の理由について次のようにまとめることができよう。

| 話し手 | 聞き手 |
|---|---|
| 過去のことについての現在における評価 | 現在のことについての現在における評価 |
| 相手に確認を求める | 自分は許可を与える立場である[18] |
| 親切にしておいてあげたい気持ち | 勝手に先取りされている[19] |
| 自分の都合による意図的な使用 | 何でも相手のペースで進められている |

人によって価値観が異なるのは当然のことであり、違和感を覚えるからといって、一概に相手の表現を問題のある日本語だと決めつけることはできなかろう。佐藤（2009:12）の指摘通り、「好き嫌いは個人の境域の問題であるが、一定の定着をみる言語現象には相応の存在理由」がある。筆者もその考え方に賛同しており、一概に「よろしかったでしょうか」が誤用であると見なすことはできない。

しかしながら、本稿の立場は「よろしかったでしょうか」という表現の使用を推奨するというわけではない。上記の表で示した通り、「よろしかったでしょうか」は話し手の意図と聞き手の解釈との間にずれを生じさせる恐れもあるからである。例えば、次のような場合である。

(15)（上司に任せられた仕事が完了したことを上司に報告する場合)「これでよろしいでしょうか？」

「これでいけそうだと思います」という判断の先取りや「仕事は一通りできましたから、これ以上やり直しはしたくないです」といったことを主張できる立場でない限り、「よろしかったでしょうか」を用いることは控えたほうがよかろう。

一方、「よろしかったでしょうか」は、今でも念を押す意味の表現として用いられることがある。

(16)（上品な婦人が宅配便に受取印を押す時)「ここでよろしゅうございましたかしら？」[20]。

こうした気品ある表現を接客の場に濫用したところに問題が生じたのである。つまり、話し手の発話意図と聞き手の解釈とが一致する場合とそうでない場合がある。そして、上記の表で示した通り、両者の間にずれが生じた場合、聞き手が違和感を覚える結果となる。言い換えれば、「よろしかったでしょうか」にはかろうじて正しい使い方と不適切な場合とがあって、不適切さを拡大すると全部おかしいように感じられてしまう。しかし、本稿は本章で詳述してきたように、この表現が一概に誤用であるとは断言できないと主張する。

## 5. むすびに代えて

本稿は、「よろしかったでしょうか」という表現について考察した。そして、「よろしかったでしょうか」がありうる表現として認識されてきた存在理由について、「た」に属する「完了」という文法・意味機能によるものと述べた。換言すれば、「た」のこの用法が「よろしかったでしょうか」の発生及び流行の論理的な支えとなっているのである。井上（1998）では個々の言語現象を捉えるのに以下の四次元を提示している。

①言語（ほかのことばとの体系的関係）

②空間（地域差、方言差）

③時間（世代差、歴史的変化）

④社会（使い手の違い、場面差・文体差）

つまり、一つの言語現象を考えるにあたって、様々な要素を総合的に考える必要があるということである。言語表現を考える際には、使用される状況などの外在的な要素を分析するだけでなく、

現実に使われている言語表現に内在する意味・文法機能も探求しなければならない。

「よろしかったでしょうか」に関する論議は、日本語の曖昧さの一端を呈していると考えることができる。このような日本語の複雑さを示す表現が多数存在するからこそ、いくら日本語を学習してもその背後に潜む日本語意識や多様な価値観はなかなか理解できないという日本語学習者の嘆きが絶えないのであろう。しかし、一方で、日本語に対する理解をより深めようとする立場から考えると、「よろしかったでしょうか」という表現一つをとっても、日本語という言語の持つ面白さ、複雑さ、奥深さを味わうことができ、大変興味深く感じられるのである。

## 注

（1）「よろしかったですか」を含む。

（2）北原（2004）の用語である。

（3）「ご注文された」が適切な敬語なのかどうかについては意見を保留させていただきたい。菊地（1997）を参照されたい。

（4）「マニュアル敬語」として取り上げられている実態、また「マニュアル敬語」を抑制する誤用意識については日高（2009）に詳しい。

（5）本稿の目的は、「よろしかったでしょうか」にまつわる違和感が生じる理由、そしてこの表現の発生及び流行する原因を明らかにするためのものである。従って、以下に提示する用例に対して強い違和感を抱く方が居られることは十二分に承知しているが、論証するに際して便宜上正しい用法（現実に存在する表現）と見なすことを予め断っておく。なお、以下、「いきなり用法」という命名は用いない。

（6）「よろしかった」に「ん（の）」が付くことで、半信半疑の意を表す強い確認である。

（7）北原（2004、2005）では、「よろしかったでしょうか」についてその使用背景を考究しているが、『問題な日本語』に収録されている時点で、「問題ありき」という姿勢に基づくものと理解して差し支えなかろう。本稿は北原説を否定論として取り上げることとする。なお、北原（2005：105）では個人として強い違和感を持っていると明言している。

（8）http://www.kotono8.com/2004/12/05yoroshikatta.html（文士・物事起源探究家松永英明の絵文録ことのは）による。テレビ番組「ブロードキャスター」が「端末入力説」「方言説」「研修マニュアル説」の3説を取り上げたと紹介している。また、塩田（2002:75―79）は「発生要因」として「長拍説」「自制転換によるていねい化説」「マニュアル説」「方言起源説」の4つを挙げている。なお、塩田（2002:75）は「発生要因」と「流行要因」に分けて論じている。本稿の基本的な観点は、起源説を限定することが困難であり、その発生及び流行は表現そのものに潜む論理的な支えによるとするものである。従って、本稿のこの箇所においては両者を「由来説」にまとめて論じる。

（9）一部の地域では、いわゆる「過去形」と称される形で現在のことを言う現象については多くの論説がある。詳しくは塩田（2002）を参照のこと。

（10）梅津（2007：61）は、「方言が全国のファストフード店に拡がったとは考えにくい」と述べている。塩田（2002：76）も接客マニュアルに「よろしかったでしょうか」という言い回しが明文化されているものがあるかどうかは、調べる必要があると指摘している。

（11）塩田（2002：79）の「早く済ませたい」説に重なるが、話し手側の都合に従って、一方的に物事を進めようとする用法がある。3章の記述を参照されたい。

（12）この点については塩田（2007：75）の指摘に負うところが大きい。

(13) 塩田（2002：82）では、「筆者は、この用法の起源はどこかの方言（調査結果からみて北海道［あるいはさらにさかのぼって北海方言成立の大きな基盤である東北的要素］が有力候補の１つではなかろうか）と述べている。

(14) 「た」に関する論説は枚挙に遑がない。「た」の用法を深く掘り下げるのが本稿の目的ではないため、「た」に関する先行説の列挙は省く。詳しくは寺村（1984）、高橋（1994）、工藤（1995、1998）、井上（2001）、金水（2001）、定延（2004）等を参照されたい。なお、フランス語との対照研究に渡辺（2006、2007）があるが、本稿は紹介するにとどめる。

(15) 寺村（1984：338）は「失礼デスガ、オ名前ハ何デシタカネ？」という用例を挙げ、「ムードのタ」として扱っている。

(16) 敬語説で解釈できないと主張するものではない。

(17) 塩田（2002：80）は「敬語チックな気分説」と命名し、自ら「事前推察」を行うことが聞き手に対する「配慮」につながると述べている。

(18) http://www.kokken.go.jp/kanko/kokken_mado_mt/11/05/（独立行政法人国立国語研究所報告紙「国語研の窓」第 11 号、ことば Q&A、2002 年 4 月 1 日発行）吉岡泰夫は「なぜ，「○○で，よろしかったでしょうか？」に違和感を覚えるのか，質問者のお気持ちを推察してみましょう。質問者は，この場面は，客に許可を仰ぐべき場面とお考えのようです。それなのに，確認を求められるから，違和感を持たれるのでしょう。客の中には，値段の安い品物を注文して，「○○で，よろしかったでしょうか？」と確認されると，もっと高い物でなくていいのか，と言われているような気がする人もいるでしょう。食べ物だけ注文して，「お飲み物は，よろしかったでしょうか？」と確認されると，セットでの注文を迫るような，おしつけがましさを感じる人もいるでしょう。」と述べている。

(19) http://www.kotono8.com/2004/12/05yoroshikatta.html（文士・物事起源探究家松永英明の絵文録ことのは）「（こちらのお皿を）お下げしてよろしかったでしょうか？」について、店員は「客の行動の自由への配慮と、客に判断の責任やわずらわしさを負わせないという配慮」から発話したのに対し、客は「先取りされて不快感」を覚えるという解釈が施されている。

(20) 内田賢徳教授からご教示いただいた。

## 参考文献


井上史雄（1998）『日本語ウォッチング』岩波書店

井上優（2001）「現代日本語の「タ」―主文末の「・・・タ」の意味について―」つくば言語文化フォーラム『「た」の言語学』ひつじ書房

庵功雄（2002）「日本語の動詞をどう捉えるか」『月刊言語』31 － 12、pp.68―73

梅津正樹（2007）「ことばおじさん「よろしかったでしょうか？」は OK ですか？（あゝ日本語）」『女性のひろば』343、pp.60―63

奥秋義信（2007）「放送言葉に警告！（6）「よろしかったでしょうか」、現在完了形を表し、誤用ではない」『新・調査情報 passingtime』67、pp.56―61

菊地康人（1997）『敬語』株式会社講談社

北原保雄編（2004）「よろしかったでしょうか」『問題な日本語』大修館書店、pp.35―38

北原保雄編（2005）「ふたたび、よろしかったでしょうか」『続弾！問題な日本語』大修館書店、pp.104―109

金水敏（2001）「テンスと情報」音声文法研究会編『音声と文法Ⅲ』くろしお出版

工藤真由美（1995）『アスペクト・テンス体系とテクスト』ひつじ書房

工藤真由美（1998）「非動的述語のテンス」『国文学解釈と鑑賞』63―1

定延利之（2004）「ムードの「た」の過去性」『国際文化学研究』21、神戸大学、pp.1―68
佐藤琢三（2009）「「間違い」は本当に間違いか―文法研究から「間違い」―」『日本語学』28―9
真田信治（2001）『方言は絶滅するのか―自分のことばを失った日本人』PHP 研究所
塩田雄大（2002）「「よろしかったでしょうか」はよろしくないか―平成 13 年度（後半）ことばのゆれ全国調査から（1）―」『放送研究と調査』52―3、NHK 放送文化研究所、pp.64―87
高橋太郎（1994）「形容詞のテンスについて」『動詞の研究―動詞の動詞らしさの発展と消失』むぎ書房
寺村秀夫（1984）『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』
日高水穂（2009）「言語変化を抑制する誤用意識」『日本語学』28―9
宮田公治（2009）「「～はよろしかったでしょうか」は押しつけか丁寧か」中山緑朗ほか『みんなの日本語事典』明治書院、pp.60―61
森田良行（2006）『話者の視点がつくる日本語』ひつじ書房
渡辺淳也（2006）「フランス語の「丁寧の半過去（imparfait de politesse）」と日本語の「よろしかったでしょうか」型語法との対照研究」『文藝言語研究　言語篇』50、筑波大学文藝・言語系、pp.41―84
渡辺淳也（2007）「対照研究フランス語の「丁寧の半過去」と日本語の「よろしかったでしょうか」型語法」『フランス言語研究』41、日本フランス語学会、pp.54―59

付記　本稿の執筆にあたって、ご教示を下さいました査読の先生をはじめとする諸先生方並びに研究仲間に心より感謝の意を申し上げます。